(東女医大誌　第32巻　第4・5号
頁 183 — 186　　昭和37年5月)

〔臨床報告〕

月経困難症に対する複合ブスコパンの効果について

東京女子医科大学産婦人科教室（主任　川上博教授）

翠川洋子・原君代・重松明子
ミドリカワ ヨウコ　ハラ キミヨ　シゲマツ アキコ

佐藤やい子・渡部モト子
サトウ ヤイコ　ワタベ モトコ

（受付　昭和37年3月5日）

緒　言

従来月経困難症に対する治療剤として種々なものがつかわれてきたがまだ有効確実なものはない．

当教室においては昨年より鎮痙剤ブスコパンすなわちヒヨスチン—N—ブチルブロマイドと中枢鎮痛剤スルピリンとの複合剤である複合ブスコパンを月経困難症を訴える外来患者に使用し，その効果を観察したので報告する．

調査対象および方法

まず主訴として月経時疼痛を訴える外来患者18〜45才までの産婦人科的諸種疾患のあるもの，およびないものなど，原因をとわず25例の患者を対象とした．患者には鎮痛剤である旨を伝え月経開始第1日目より服用するよう指示し服用後その効果を試問した．

薬剤はC．H．ベーリンガーゾーン社と田辺製薬による複合ブスコパン糖衣錠で，1錠中ブスコパン0.01g，スルピリン0.25gを含有するもので，表1の如き構造式を有するものである．

この糖衣錠を1回2錠，1日3回服用するよう指示し，また症状に応じて1回2錠，1日5回投与した．投与日数は症状に応じて1日から3日間，さらに全期間中投与した．

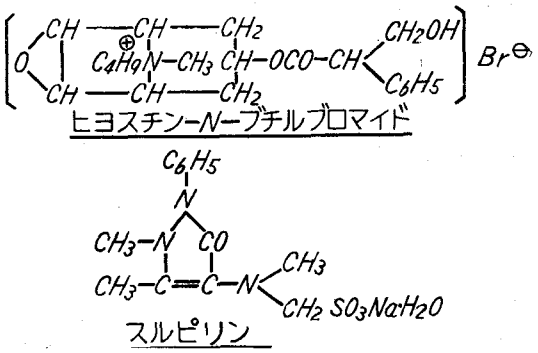
結　果

効果および副作用は表2．3に示すごとくである．

すなわち性周期，持続日数は複合ブスコパン使用後も使用前とほとんど変化なく，月経量，凝血塊は4〜5例複合ブスコパン使用後，月経量の減少したもの，また凝血塊のなくなつたもの，少なくなつたものがみられた．

疼痛においては25例中複合ブスコパン使用後完全に疼痛のなくなつたもの7例，疼痛の軽減され

表1　複合ブスコパン



Yōko MIDORIKAWA, Kimiyo HARA, Akiko SHIGEMATSU, Yaiko SATŌ and **Motoko WATABE**
(Department of Obstetrics and Gynecology, Tokyo Women's Medical College): Effects of Buscopan-compositum on dysmenorrhoea.

表　2

症例番号	年令	初潮	性周期		月経量		凝血塊		持続日数		疼痛				疼痛の性質						其他の障害	
											腹痛		腰仙痛		仕事を休む程度		仙痛		鈍痛			
			使用前	使用後	使用前	使用後	使用前	使用後	使用前	使用後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	使用前	使用後
1	24才	19才	整	〃	多	〃	大	〃	4日	〃	中	弱	弱	(—)					(+)	(—)	悪心 (±) 吐気 (—) 眩暈 (+)	
2	24	15	整	〃	中	少			4	〃	強	弱	強	弱	1日休む	休まず			(+)	(—)		
3	26	14	不整	〃	少	〃	小	(—)	4	〃	強	〃	中	〃	1日休む	半日休む			(+)	(—)	頭重 (—)	
4	24	14	整	〃	中	〃	小	(—)	4～5	3	中	(—)	弱	(—)					(+)	(—)	眩暈 便秘 (—)	
5	32	14	不整	〃	中	〃	小	〃	3	4	強	弱	中	弱					(+)	(—)	眩暈 口渇 吐気 眠気	
6	22	16	不整	〃	中	〃	小	〃	4	5	強	弱	強	弱					(+)	(—)	口渇	
7	20	15	整	〃	中	〃	小	〃	6	5	強	(—)	弱	(—)							口渇	
8	24	15	不整	〃	中	〃	中	〃	5	5	強	〃	強	〃	1日休む	〃	(+)	(+)			眩暈 (+) 吐気	
9	21	16	整	〃	多	〃	大	中	7	7	強	〃	強	〃					(+)	(+)		
10	27	16	不整	〃	中	〃	小	〃	3	7	弱	〃	弱	〃			(+)	(—)			眩暈	
11	20	15	不整	〃	中	〃	小	〃	7	7	強	〃	中	〃			(+)	(+)				
12	19	14	整	〃	中	〃	小	〃	7	7			強	〃	2日休む	〃			(+)	(+)	便秘 (+)	
13	21	14	整	〃	多	〃	大	〃	7	〃			強	弱					(+)	(—)	食慾不振 口渇	

たもの13例，無効5例であり，大多数において仙痛は軽減された．

複合ブスコパンの副作用については，服用後口渇を訴えたもの5例，眠気，眩暈を訴えたもの4例，しびれ感を訴えたもの1例があつた．

また25例中7例はひきつゞき月経毎に何回か使用したが，2—3性周期使用後疼痛の軽減したもの，薬剤を服用しないでも苦痛を感じなくなつたもの，また薬剤を月経開始より3日目まで服用していたものが1日服用のみで良くなつたものなど5例あつた．1例のみ第2性周期まで服用して効果があつたにもかゝわらず第3性周期服用時全然効果のなかつたものがあつた．

考　按

月経困難症をその原因によつてみると機能的月経困難症，機械的月経困難症，神経的月経困難症などに分類することができる．そしてこれらの治療法としてまず原因除去が考えられる．すなわち機械的月経症において炎症性のものには抗炎症剤を，子宮位置異常には整復術を，子宮腫瘍には腫瘍剔出術をというように比較的單純に原因除去が考えられる．たゞし機能的月経困難症と神経的月経困難症は原因がまだ明確でないため原因除去の治療法は困難であり，従来さまざまな治療法がおこなわれてきた．その1つで内分泌療法は排卵抑制法など受胎能を低める危険性があり内分泌平衡を障害する可能性がある，また單一ホルモン大量投与にひきつゞきおこる子宮出血，男性ホルモン大量使用による男性化などあるので，常時おこなうべき治療法ではないと考える．神経的月経困難症に近来精神々経安定剤が種々使われているが精神療法，暗示療法などと共に大いに利用されて良いと思う．

こゝに若年者などで診療も充分出来ず原因不明な症例および内分泌療法が不適当と思われる症例，また原因が明確であつても原因除去の困難

表 3

症例番号	年令	初潮	性周期		月経量		凝血塊		持続日数		疼痛				疼痛の性質						其他の障害	
											腹痛		腰仙痛		仕事を休む程度		仙痛		鈍痛			
			使用前	使用後	使用前	使用後	使用前	使用後	使用前	使用後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	使用前	使用後
14	28	15	整	〃	小	中	(—)	(—)	2.5日	3	強	中	中	〃			(+)	(—)			下痢	眠気
15	18	15	整	〃	中	〃	小	〃	5	〃	強	1日目のみ弱	中	弱	1日休む	休まず	(+)	(—)				
16	40	15	整	〃	中	〃	小	〃	5	〃	強	弱	強	弱			(+)	(—)	(+)	弱		口渇
17	43	18	整	〃	多	中	小	〃	5	〃	強	弱	中	弱	1日目数時間休む		(+)	(—)				口渇
18	22	16	不整	〃	中	〃	(—)	(—)	5	〃	中	(—)					(+)	(—)				
19	45	15	整	〃	多	〃	大	〃	5	〃	強	(—)	強	(—)	1日目休む		(+)	(—)				
20	28	14	整	〃	多	〃	大	〃	7	〃	強	(—)	強	(—)	1日目半日休む		(+)	(—)			冷汗 眩暈	(—)
21	36	17	整	〃	少	〃	大	〃	5	〃	強	弱	強	弱	2日目2～3時間休む		(+)				下痢	
22	26	16	不整	〃	中	〃	小	〃	3	〃	強	(—)	強	(—)	1日目休む		(+)	(—)			悪心 頭重	(—)
23	19	13	整	〃	中	〃	小	〃	7	〃	強	弱	強	弱	1～2日休む		(+)	(—)				
24	27	14	整	〃	中	少	大	中	5	〃	強	(—)	強	(—)	1～3日休む		(+)	(—)			眩暈	(—)
25	34	13	整	〃	多	〃	中	〃	10	〃	強	弱	中	弱	1～3日休む		(+)	(—)			顔面浮腫 しびれ感浮腫	(—)

な症例ではどうしても対症療法が必要になつてくる．従来鎮痛，鎮静剤としてアンチピリン，アミノピリン，アスピリン，フェナセチン，グレラン，ブロバリン，ルミナールなど多数使用されてきたが，近来鎮痙剤として副交感神経節の神経伝導に特異の遮断作用を有し，特に神経節に作用して，なおアトロピンなどのように眼，汗腺，唾液腺，心臓に対する作用の強くない薬剤で，胃腸管，胆管，尿路および性生殖器などの臓器組織に作用して痙攣を緩解するブスコパンすなわちヒヨスチンーN—ブチルブロマイドが発見され，婦人科方面でも月経困難症に効果のあることが小浜[1]，生田[2]，岡本[3]らによつて報告された．

最近痙攣緩解のみでなくこれに鎮痛剤の加わつた複合ブスコパンが使用されるところとなり内科，外科，泌尿器科方面では Heising[4]，Jahn[5]，Krug[6]，Lutzeyer[7]，Reinhard[8]，白倉[9]，山本[10]，築山[11]，後藤[12]，荒木[13]ら幾多の報告が既になされており有効であることが判明しているが，婦人科方面ではまだみるべき報告はないようである．

当教室では月経困難症に対症療法剤として本薬剤を使用し充分有効であり，なお対症療法剤として使用したのにもかゝわらず数性周期使用後疼痛の軽減したものが7例中5例をかぞえ精神的なものと思われるが，数多い月経困難症患者に福音を与えるものであり，またみるべき副作用もないことが判明したので報告した．

結　語

18～45才までの月経困難症を主訴とする外来患者25名に原因を問わず複合ブスコパンを投与し，疼痛の完全除去したもの7例，疼痛の軽減したも

の13例，無効5例を，また副作用は4～5例口渇を訴えたものがあつたほか著変ないことを観察し，月経困難症の治療剤として複合ブスコパンはすぐれているものであることが判明したので報告した．

（本研究を御指導頂いた川上教授に深謝すると共に御協力頂いた東京女子医大（尾久）第二病院医長吉田茂子講師に深謝致します）．

文　献

1）小浜正美・他：産科と婦人科 23 813（1957）
2）生田義和・他：産科と婦人科 24 720（1958）
3）岡本順和・他：産婦人科の実際 5（12） 768（1957）
4）**Heising, A.:** Fortschr. Med. 74 392－393（1956）
5）**Jahn, H.J.:** Med. Mschr. 10 527－529（1956）
6）**Krng, G.:** Ther. Gegenw. 96 98（1957）
7）**Lutzeyer, W.:** Z. Urol. 50 109（1957）
8）**Reinhard, W. u. Düsherg, K.:** Deutsch. Med. J. 7 662－663（1956）
9）白倉範幸：新薬と臨床 7 626－630（1958）
10）山本恵一郎：綜合臨床 8 1139－1148（1959）
11）築山義雄・他：最新医学 15 2951－2955（1960）
12）後藤薫・他：泌尿器科紀要 3 592－598（1957）
13）荒木竜爾・他：診療 11 836－839（1958）